

道路や学校の中に ごみが おちていたら みなさんは どうしますか
今日は、

勇気がなければ ごみは拾えない

という話をします。

そうじに学ぶ会 会長 かげ山さんが、
中国の大学で 大学生と一緒に掃除をした時、
参加した大学生から質問がありました。

「私は、大きなことをやるために大学に来て勉強している。

そうじのような小さなことにこだわっていたら 大きなことは
できない」と思います。

その 大学生に かげ山さんは、

「あなたは たくさんの人が見ている前で 道に落ちている 1本のたばこの
吸殻を拾うことができますか」 と聞いたところ

「ひろえない」

「立派な手があってどうして拾えないのですか」

「はずかしいからです」

この学生が言うように 道に落ちている 吸殻の1つ 空き缶1つ拾うのにも
相当な勇気がないとできません

かげ山さん 毎朝 自分の会社の周りの掃除をしています。

特に バス停で 10人ぐらいの人が待っている目の前で、足元に落ちているごみを拾うのに
は相当の抵抗があります。

人間というのは、そういう抵抗を超えていくことで 心が鍛えられ、より成長していくもので
す。だから ごみを一日に少しでも拾って歩けば そのたびに 大きな勇気がえられます。

かげ山さんは、この吸い殻や空き缶をただ拾うことだけが目的ではなく、
日本をゴミひとつない国にしたいと思っています。

「これは小さなことですか」と中国の大学生に聞くと

大学生は、すぐ「大きいことだと思います。」と答えました。

小さなことでも それを実行するには大きな勇気がいります。

だから 道に落ちているごみも 日々自分を鍛えてくれる大事なことだと
考えることもできるのです。

一つひろえば 一つだけ きれいになる